

## 伊勢の「粁堂香風」25周年

政治家・尾崎粁堂が結んだ日米の縁を、交流事業でつないでいる伊勢市のNPO法人「粁堂香風」が、設立から二十五周年を迎えた。八日の記念パーティーを前に、米国から全米州議会協会(NCSS)の三人が伊勢市を訪れ、七日は尾崎粁堂記念館でハナミズキの植樹などを行った。

(大島康介)

粁堂は、明治から昭和の戦後まで伊勢を地盤に国会議員を務め、日米親善のために米国に三千本の桜を贈ったことでも知られる。「憲政の神様」とも呼ばれる粁堂を伊勢で顕彰するため、一九九四(平成六)年に有志で結成された「粁風会」が、粁堂香風の前身に当たる。粁堂の贈った桜の開花を日米の関係者が祝う「全米桜祭り」に参加するなど、米国との交流を続けている。

記念パーティーに合わせて来日したのは、全米桜祭り「全米桜の女王」を選んでいるNCSSのヒート・ペロウィッツ会長、アキコ・キーン理事。昨年の「全米桜の女王」を務めたマーガレット・オメーラさんも訪れた。ペロウィッツ

## 全米州議会協の3人招く



日米親善のハナミズキを植樹する土井理事長(左から3人目)やペロウィッツNCSS会長ら＝伊勢市川端町の尾崎粁堂記念館で

会長は「粁堂香風の皆さんが長年の親善活動に取り組んでいることに敬意を表します」とあいさつした。記念館の前に植えられたハナミズキの若木に、三人と土

井孝子理事長(モ)が土をかぶせた。粁堂香風は、市有施設の尾崎粁堂記念館を指定管理者として運営し、展示や講演会などで粁堂が国会や言論活動で示してきた民主主義の考えを広めている。子どもたちに粁堂に関する作文を書いてもらうコンクールも毎年実施する。

粁堂が贈った桜に対して米国からの返礼となったハナミズキにちなんで「花みずきの女王」も決めてい

グラウンドゼロに  
折り鶴献上思い出

土井理事長に聞く

粁堂香風の設立二十五周年に当たり、二〇一四年から理事長を務めている土井孝子さん「伊勢市船江」に思いを聞いた。

多くの方々の協力があったて活動を続けてこられた。とても感謝している。

やはり印象に残っているのは、七回にわたって米国を訪問して「全米桜祭り」に参加した時に大きな歓迎を受けたことだ。とりわけ〇三年春の訪米は、米国とイラクが戦争に突入している真っ最中で、安全に行けるか不安が大きかった。テロがあったニューヨークの「グラウンドゼロ」に、伊勢から持ってきた折り鶴を献上したことが思い出深い。

粁堂に関する作文コンクールは、一九九六年にスタートした当初は十五点しか応募がなかったが、近年は五百点を超えている。定着してきたのではないかと。過去に入賞した子どもたちが、民主主義について今、どんな考えを持っているのか聞いてみたいと思うことがある。

近く理事長をバトンタッチしたいと考えている。粁堂香風による伊勢と米国の親善は、若い世代によって受け継がれていくこと。嬉しい。